

平成 26 年度 第 3 回武蔵野市自転車等駐車対策協議会 議事要旨

1. 開催日時 平成 27 年 1 月 20 日（火）午前 10 時 30 分から 12 時まで
2. 開催場所 武蔵野市役所東棟 8 階 8 0 2 会議室
3. 出席委員 13 名 欠席委員 2 名

4. 内 容

- 開 会
- 会長あいさつ
- 新委員紹介

5. 審議事項

(1) 「武蔵野市自転車等総合計画」の改訂について

<事務局説明>… 「武蔵野市自転車等総合計画」の改訂について

<質疑応答事項>

委員：様々な自転車問題が網羅されている総合計画になっていると思う。
まずは計画そのものの大きな組み立てに対する議論から進めていきたい。

委員：他の市区と比べても、客観的なデータの積み重ねにより限なく調査されている点で評価できる。このデータを継続的に、どう積み重ねていくかが重要になってくる。プライバシーの問題等もあるが、GPS を使って断面交通量だけでなくどういう経路を辿って駅まで来ているかといった調査もネットワークを考えていく時には重要になってくる。自転車事故は人身事故にまで至らない、ヒヤリ、ハットといったニアミスが非常に多く、自転車と歩行者の錯綜状況をどのように把握していくかも重要になってくる。また、どこまで盛り込むかの議論はあるが、計画を推進していく主体の問題、計画の主語は行政だけでなく、市民参加の形で武蔵野市ならではの形でのコミュニティを巻き込み、その底力を活用していくような展開もあるかと思う。ハードの整備だけでなく、人と人とのつながりを使った意識啓発をしていくことも必要だ。

委員：良く出来た計画であるが、これを誰が担っていくのか、特に市民が何を担うべきかが今後問題になってくるかと思う。

委員：大正通りの放置自転車が以前はとてもひどかった。総合計画を見て、計画通り実

施された結果として放置自転車の減少が進んできたのがよくわかった。今後この計画が市民段階に降りてきたときに、私たち市民がどう継続して行動できるか。市民全員に関わることを自分のことと考えない人も多く、公共の事に対しての意識の差があるので、そこを埋めて共有していけると良い。

委員：先進的な行政であればあるほど、行政と市民の間の空白がある。ここを埋めていくと自転車の問題も前に進んでいくのではないか

委員：計画は、最終的には市民のレベルでどう受け止められ、実際にどのように実行されていくかにかかってくる。3駅ごとに性格が異なり課題も様々である。例えば、定期利用をすべて一時利用にできれば、それほど駐輪場を増やす必要もないし合理的なように思う。アンケートの中で解決策が見つかるものと、コミュニティの中で解決策を出していくものがある。議員としては、市民生活の中で色々な角度から自転車問題を誰にもわかるように市民に伝えていきたい。

委員：歩行より早く車より遅い中速モードが、今後の都市生活の中で重要になってくるかと思う。この計画は交通需要に対するマネジメントとして良く出来ている。これから先はどう市民を巻き込んで生活の中で根付かせていくのかが大事なことである。まちづくりの点からすると、今後は回遊性等、観光的な視点から新たな付加価値を加えていくという幅広い計画を期待したい。

委員：自転車の位置づけとしてTWCCの考え方が示されており、このあたりももうひとつ前へ進めることにつながるのではないか。

委員：三鷹地区は現在良い状態にある。一時利用を増やすことはいいが、税金を使って整備しているので、一時利用の料金が武蔵野市民と市外で同じでいいのか。市民にはプリペイドカードのようなものがあるといいのではないか。ハードはよくなってきているが、ソフトの面ではまだまだである。こういう計画に係る人たちが同じ顔ぶれになってしまうことが多い。新たな人材を発掘し参加していただくことも必要ではないか。

委員：他の市でも自転車に対する対策をとっているが、武蔵野市は安全利用講習会の回数も多くあり、放置自転車もとても少なく、自転車施策はかなり進んでいるように思う。自転車に関する事故は多いが、警察でも事故を減らすキャンペーンをやっている。公民一体になり、市民全体で盛り上がることを意識づけていきたい。

委員：計画案自体は素晴らしいものだと思うし、この計画に沿って実行していけば良い。個人として感じることは、自転車事故が多いことは余裕と時間の無さも一因のように思う。心のゆとりや、心の持ち方で乗り方も変わってくる。自転車は「優しく乗る」という意識づけをしていってもいいのではないかと思う。

委員：3駅様々な形態の利用者がある中、成果が計画に表れている。今は対策から政策へ脱却していく時期にきている。ゆっくり乗る人も早く乗る人もストレスなく皆が自転車利用できるようになることが究極の目的ではないかと思っている。この計画が終わる、5年後の2020年には東京オリンピックがあり、多摩地域が自転車レースのコースになる予定で観戦者も多く来る。自転車環境の整備がまちおこし、自転車利用啓発の一助になるのではないか。オリンピックが終着駅ではなく、その先も見据えたまちづくりを視野にいれて取り組んでいくことが大切である。

委員：連続立体交差事業や駅改良、駅前の自転車駐輪場では非常にお世話になっており、今後も連携してやっていきたい。総合計画について、放置自転車対策や自転車適正利用を細かく分析されており熱意を感じる。これから先、この計画をまちの中でどう生かしていくかに興味がある。上位計画との関係と、まちづくりにおける自転車の位置づけがイメージとして市民にわかりやすくなるとより良いと思う。

委員：この計画をどう現実化、具体化していくか、利用者はどう伝えていくかが重要だ。駐輪場利用者が各地域のどの辺りから来ているかといった利用者について分析したデータは他では見たことがなく、素晴らしいものだ。

委員：災害時に緊急輸送道路が通行できなくなり、一般道も渋滞する中での自転車の位置づけ、通行空間の問題の有無を考えておいていただきたい。また、最近、武蔵野市でも子どもを後ろ前に乗せる3人乗りの自転車も増えてきており、これをラックの下に停めると上段に停めづらいため、収容可能台数と実際に駐輪できる台数の実態が変わってくるかもしれない。また、最近は民間でも2時間無料の駐輪場が増えてきて、吉祥寺地区も自転車が利用しやすくなった。自転車は近隣市区からも簡便な交通手段であるので、一時利用の料金については、受益者負担の問題だけでなく、商工振興の観点も考慮するべきかと思う。

委員：駐輪場や、放置自転車対策で一定の評価がされているが、かなりの投資をしてきたので、今後は効率性が求められる。また、走行環境、自転車利用の安全性が社会的課題になっている。時間を埋める効率性が求められるのも交通手段としての自転車である。自転車の走行環境のネットワークについては、検討はしているが

具体的な内容については、今回の総合計画には記載せず、ネットワーク計画を策定するという方向性を示させていただいた。ネットワークの検討については、東京都はじめ、市域外との連携が重要であり、各関係団体と協議させていただきながら、2年間かけて方向性を具体的に示していく。また、安全教育の普及、安全利用講習会等で市民が計画に接する機会を増やしていきたい。

委員：他者との連携で、上位計画や他の分野のそれぞれの計画策定の段階でも自転車の問題が出てくる。他の計画の中での自転車の情報も掴み、こちらからも情報を提供し、様々な計画でも広く連携していくことが必要であると考えます。

委員：今回いただいた意見を踏まえながら、2月中旬下旬にパブリックコメントを募集し、計画として4月から実施していきたい。

委員：皆様のご意見と努力で、素晴らしい計画ができあがった。武蔵境も整備が着々と進んできている。今後も皆の協力で自転車問題を進めていきたい。

○開 会